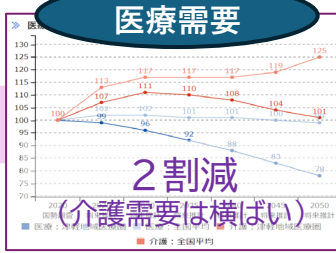


2040年に向けた地域の医療課題

大学病院の現状

人口減少
4割減

労働力低下
5割減



医師を含む医療人材不足
+
地域の医療機関の減少見込みと
医療需要のアンバランス

現在~2040年における医療課題



病院長戦略室の設置 病院長のマネジメント強化 弘前大学医学部附属病院における病院運営の構造転換を通じた課題解決

遠隔手術支援の実施

<これまでの遠隔医療>

- オンライン診療
- 救急医療連携
- 遠隔ICU
- 遠隔妊産婦管理
- 遠隔画像診断

遠隔手術支援 (R8~)

遠隔教育体制の充実

遠隔教育システムの導入

教育研究体制の充実

診療データ抽出環境の整備

診療データの研究活用

遠隔手術支援に関する臨床応用研究

質量分析装置の整備

研究機器の充実

研究支援者の配置

研究支援体制の充実

実習シミュレータの整備

学生 (リカルト) 教育の充実

薬剤鑑別等の機器整備

薬剤師養成体制の強化

最先端医療機器 (手術支援ロボット) の導入

ロボットサージャリーの推進

診療工フォートの縮小

多職種のタスクシフト

医療DXによる業務効率化

医師派遣体制の維持

医師派遣プラットフォーム

地域医療維持確保に向けた
医師派遣・配置調整会議 (R6~)

+ オンライン診療等 従来の遠隔医療の拡充

+ 看護師の特定行為研修の充実 地域のメディカルスタッフの臨床実習

+ 遠隔医療提供体制の充実を図るプラットフォーム (別添) の設置

弘前大学医学部附属病院改革 **課題解決**

- トランスレーション研究志向を持った研究医養成などを通じて地域の医療課題に対する医学研究の推進
- 医師のみならず様々な医療「人財」の養成
- 医師派遣・配置の検討プラットフォームと遠隔医療の2つの手段による地域医療提供体制の強化・支援

遠隔医療による地域医療支援体制に関する協議会の設置について

1. 現状と課題

青森県（以下：県）ではへき地をはじめ医療提供体制を確保するため、医療機関におけるICTの活用推進に取り組んでいるところであり、遠隔医療については県並びに県内の医療機関において様々な事業や支援体制が整備されている。弘前大学医学部附属病院（以下：大学病院）もオンライン診療や遠隔ICUなどをむつ総合病院と行っているほか、県内の複数の医療機関と透析患者に関する遠隔管理支援なども行っている。

上記のとおり、県が推進する**遠隔医療は医師派遣とともに今後の地域医療提供体制の維持・強化に非常に有効な手段**である。

一方で遠隔医療提供体制については、**各医療機関がそれぞれ独自の事業として活動しているところであり、県内の提供体制や潜在的ニーズの把握は行われていない。**

2. 協議会設置の目的

本協議会では、県内における遠隔医療の実施体制の情報共有、遠隔医療の利点や運用課題の共有、未導入地域・機関からのニーズの共有を行うとともに、今後の県の遠隔医療政策に資する協議の場と考える。



- 遠隔医療の提供体制の把握・共有
- 遠隔医療提供の効果と課題の共有
- 未整備地域のニーズの把握

遠隔医療を通じた地域医療支援の充実